

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0014-3)
GeneAll Exgene™ Plant SV (植物 DNA):バッファーBD

初回作成日:2025年3月13日
前回改訂日:2025年11月20日
最新改訂日:2026年3月16日
版番号:第5版

1. 化学品及び会社情報

1.1 化学品の名称

製品名	GeneAll Exgene™ Plant SV (植物 DNA)
製品番号	GA117-110 (Mini 10 回用サンプル) GA117-101 (Mini 100 回用) GA117-152 (Mini 250 回用)
バッファー名	バッファーBD Buffer BD

1.2 化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途	試験研究用実験試薬
使用上の制限	専門ユーザー向け

1.3 提供者の詳細


製造元の会社情報	GENEALL BIOTECHNOLOGY CO., LTD GeneAll Bldg., 303-7, Dongnam-ro, Songpa-gu, Seoul, 05729, Korea
供給者の会社情報	日本ジェネティクス株式会社 〒112-0004 東京都文京区後楽 1 丁目 4 番 14 号 後楽森ビル 18 階 電話番号:03-3813-0961 ファックス番号:03-3813-0962
供給者の緊急時連絡先	電話番号:03-3813-0961 (祝祭日を除く、月曜日から金曜日の午前 9 時から午後 5 時 30 分) E メール:info@genetics-n.co.jp

2. 危険有害性の要約

2.1 化学品の GHS 分類

危険有害性項目	危険有害性区分
物理化学的危険性	区分に該当しない/分類できない
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	区分:4
皮膚腐食性/刺激性	区分:2
眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性	区分:2
環境に対する有害性	
水生環境有害性 長期(慢性)	区分:3

2.2 GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル	 GHS07
注意喚起語	警告
危険有害性情報	
物理的危険性	該当しない

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0014-3)
GeneAll Exgene™ Plant SV (植物 DNA):バッファーBD

健康有害性	H302: 飲み込むと有害
	H315: 皮膚刺激
	H319: 強い眼刺激
環境有害性	H412: 長期継続的影響によって水生生物に有害
注意書き	
安全対策	P264+P265: 取扱い後は手をよく洗うこと。眼を触らないこと。
	P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
	P273: 環境への放出を避けること。
	P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
応急措置	P301+P317: 飲み込んだ場合: 医療処置を受けること。
	P302+P352: 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。
	P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
	P330: 口をすすぐこと。
	P332+P317: 皮膚刺激が生じた場合: 医療処置を受けること。
	P337+P317: 眼の刺激が続く場合: 医療処置を受けること。
	P362+P364: 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
保管	該当しない
廃棄	P501: 内容物/容器は、関係法令及び地方公共団体の規則に従い、産業廃棄物として適切に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

3.1 化学物質・混合物の区別 : 混合物

3.2 化学名又は一般名

	化学名又は一般名	CAS 番号	濃度又は濃度範囲
①	グアニジン塩酸塩 Guanidine Hydrochloride	50-01-1	20~30%
②	ポリ(オキシエチレン)＝オクチルフェニルエーテル (Triton X-100) Poly(oxyethylene)octylphenyl ether	9002-93-1	1.0~10%
注意	本製品に含まれる成分のうち、組成や濃度が営業秘密に該当するものについては、関連法規に基づき、成分名を非公開、濃度を非公開もしくは幅記載としています。また、製品仕様上、濃度にばらつきがある場合は、幅記載としています。SDS に記載がなくとも、危険有害性を有さない成分、法令により開示義務のない濃度未満の成分が含まれている可能性があります。		

4. 応急措置

一般的な情報	必要な処置をとるために、この SDS を担当医に見せること。
吸入した場合	患者を空気の新鮮な場所に移すこと。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類をすべて脱ぎ、再利用する前に洗濯すること。
	皮膚を水/シャワーで洗い流すこと。
	気分が悪い場合は、医療処置を受けること。
眼に入った場合	眼を水で 15 分間洗い流すこと。
	可能であればコンタクトレンズを外すこと。
	医療処置を受けること。
飲み込んだ場合	意識がない人には口から何も与えないこと。
	口をすすぐこと。

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0014-3)
GeneAll Exgene™ Plant SV (植物 DNA):バッファーBD

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤	水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素消火剤
使ってはならない消火剤	情報なし

5.2 火災時の特有の危険有害性

危険有害性	情報なし
-------	------

5.3 消火活動を行う者の特別な保護具

消火を行う者の保護具	必要に応じて自給式呼吸器(SCBA)を着用すること。
------------	----------------------------

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

人体に対する注意事項	十分な換気を確保すること。
	ミストやガスの吸入を避けること。
保護具	適切な保護具を着用すること。
緊急時措置	人員を安全な場所へ避難させること。

6.2 環境に対する注意事項

環境に対する注意事項	環境への放出を避けること。
	漏出物の水路、下水道、排水溝、閉鎖された区域への流入を避けること。

6.3 封じ込め及び浄化の方法・機材

封じ込め及び浄化の方法・機材	不活性吸収材に吸収させ、化学廃棄物用容器に入れること。
	容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 取扱い

安全取扱注意事項	眼や皮膚との接触を避けること。
	ミストや蒸気の吸入を避けること。
	粉塵やエアロゾルの生成を避けること。

7.2 保管

安全な保管条件	容器をしっかりと密閉し、涼しく換気の良い場所に保管すること。
---------	--------------------------------

7.3 その他の情報：特定の最終用途は、項目 1.2 を参照すること。

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 許容濃度等

管理パラメータ	ばく露限界に関する物質は含まれていない。
---------	----------------------

8.2 設備対策

ばく露を軽減するための設備対策	情報なし
-----------------	------

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0014-3)
GeneAll Exgene™ Plant SV (植物 DNA):バッファーBD

8.3 保護具

呼吸用保護具	ばく露物質の物理的・化学的特性に適合し、適切な政府基準により試験・承認された呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具	適切な政府基準により試験・承認された保護手袋を着用すること。
	使用前に手袋を点検すること。
	使用後の手袋は、関連する環境規制に従い処分すること。
	手を洗って乾かすこと。
眼及び/又は顔面の保護具	密着型の安全眼鏡や顔面保護具を着用すること。
	適切な政府基準により試験・承認されたフェイスシールドや安全眼鏡などの眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な耐薬品性の保護衣を着用すること。
	作業区域内の物質の濃度と量に応じて選択すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態(外観/形状)	液体
色	データなし
臭い	データなし
臭いの閾値	データなし
融点/凝固点(軟化温度/範囲)	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性(液体、ガス)	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/ 可燃限值	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
分子量	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	適切な使用条件および保管条件下では安定している。
危険有害反応の可能性	適切な使用条件および保管条件下では安定している。
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	強酸化剤、強塩基、強酸
危険有害な分解生成物	火災時に発生する有害な分解生成物:一酸化炭素、塩化水素ガス、窒素酸化物

11. 有害性情報

混合物としての情報の他、成分(原体)の有害性情報を以下に示す。

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0014-3)
GeneAll Exgene™ Plant SV (植物 DNA):バッファーBD

11.1 バッファーBD

危険有害性項目	内容
急性毒性	(経口)飲み込むと有害 (経皮)データなし (吸入)データなし
皮膚腐食性/皮膚刺激性	皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	強い眼刺激
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	本混合物に 0.1%以上の濃度で含まれる成分の中に、ヒトに対しておそらく、あるいは、確実に発がん性があると特定されたものはない。(IARC)
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
誤えん有害性	データなし

11.2 グアニジン塩酸塩

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
急性毒性(経口)	区分 4	ラット LD50 値 1120mg/kg、908mg/kg(推)、774mg/kg(雌)(IUCLID (2000))が全て区分 4 に該当している。
急性毒性(経皮)	区分外	ウサギの LD0 値が >2000 mg/kg(IUCLID(2000))により区分外とした。
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外	GHS の定義における固体である。
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない	データなし。
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	区分外	ラットの LC50 値が 5.319 mg/L(IUCLID 2000)より、区分外とした。
皮膚腐食性/皮膚刺激性	区分 2	ウサギを用いた試験(EPA ガイドライン)により「強い刺激性(highly irritating)」を示し(IUCLID(2000))、さらに EU 分類において Xi; R36/38 であることから、区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2A	ウサギを用いた試験(EPA ガイドライン)において、刺激性(irritating)を示し(IUCLID(2000))、さらに EU 分類において Xi; R36/38 であることから、区分 2A とした。
呼吸器感作性	分類できない	データなし。
皮膚感作性	分類できない	モルモットを用いた皮膚感作性試験(Buehler Test)(EPA ガイドライン)において感作性なしの記載(not sensitizing)(IUCLID(2000))があるが、List 2 のデータであるため分類できないとした。
生殖細胞変異原性	分類できない	in vivo 変異原性試験のデータがなく分類できない。なお、エームス試験(in vitro 変異原性試験)では陰性結果(IUCLID(2000))が得られている。
発がん性	分類できない	データなし。
生殖毒性	分類できない	データなし。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない	データなし。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない	データなし。
誤えん有害性	分類できない	データなし。

11.3 Triton X-100

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
急性毒性(経口)	分類できない	データなし。
急性毒性(経皮)	分類できない	データなし。
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外	GHS の定義における液体である。
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない	データなし。
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	分類できない	データなし。
皮膚腐食性/皮膚刺激性	分類できない	データなし。

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0014-3)
GeneAll Exgene™ Plant SV (植物 DNA):バッファーBD

眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性	区分 2A	ウサギの眼に試験物質の 10%液を 0.1 mL 適用した試験(OECD TG405)において、刺激性(角膜混濁、虹彩炎、結膜の発赤と浮腫)が認められたが、症状は全て適用後 7~21 日にほぼ回復し、MMAS (AOIに相当)= 68.7であった(ECETOC TR 48(2)(1998))ことに基づき、区分 2Aとした。
呼吸器感受性	分類できない	データなし。
皮膚感受性	分類できない	データなし。
生殖細胞変異原性	分類できない	データなし。
発がん性	分類できない	データなし。
生殖毒性	分類できない	データなし。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない	データなし。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない	データなし。
誤えん有害性	分類できない	データなし。

12. 環境影響情報

混合物としての情報の他、成分(原体)の環境影響情報を以下に示す。

12.1 生態毒性

12.1.1 バッファーBD

水生環境有害性(急性)	データなし
水生環境有害性(長期間)	長期継続的影響によって水生生物に有害

12.1.2 グアニジン塩酸塩

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
水生環境有害性 短期(急性)	分類できない	データなし。
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない	データなし。

12.1.3 Triton X-100

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
水生環境有害性 短期(急性)	区分 2	魚類(ブルーギル)の 96 時間 LC50 = 3 mg/L(ECETOC TR91, 2003)から区分 2とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	区分 2	急性毒性区分 2 であり、急速分解性がない(BIOWIN)ことから区分 2とした。
オゾン層への有害性	分類できない	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため。

12.2 残留性・分解性

バッファーBD	データなし
グアニジン塩酸塩	難分解性

12.3 生物蓄積性

バッファーBD	データなし
グアニジン塩酸塩	低濃縮性

12.4 土壌中の移動性 : データなし

12.5 他の有害影響

オゾン層への有害性	データなし
-----------	-------

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0014-3)
GeneAll Exgene™ Plant SV (植物 DNA):バッファーBD

13. 廃棄上の注意

13.1 化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

製品及び残余廃棄物	内容物/容器は、関係法令及び地方公共団体の規則に従い、産業廃棄物として適切に廃棄すること。
	廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険有害性を告知すること。
	環境への放出を避けること。
汚染容器及び包装	完全に空でない場合は、製品入り容器と同様に処理すること。

14. 輸送上の注意

14.1 国際規制

国連番号 (UN Number)	非該当
品名(国連輸送名) (UN Proper Shipping Name)	非該当
国連分類 (輸送時の危険有害性クラス) (UN Transport Hazard Class)	非該当
容器等級 (Packing Group)	非該当
ユーザー向け特別注意事項	ADR/RID(陸上規制)、ADN(内陸水路規制)、IMO/IMDG-Code(海上規制)、ICAO/IATA-DGR(航空規制)で規制された危険物ではない。

14.2 国内規制

海上規制情報	船舶安全法の規定に従うこと。
航空規制情報	航空法の規定に従うこと。
陸上規制情報	毒物及び劇物取締法、消防法、高圧ガス保安法、道路法の規定に従うこと。

15. 適用法令

15.1 該当法令

化審法	非該当
化管法/PRTR法	Triton X-100(ポリ(オキシエチレン)＝アルキルフェニルエーテル) :第1種指定化学物質
労働安全衛生法	グアニジン塩酸塩 :名称等を表示すべき危険物及び有害物(令和8年4月施行予定) :名称等を通知すべき危険物及び有害物(令和8年4月施行予定) Triton X-100(ポリ(オキシエチレン)＝パラ-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェニルエーテル) :名称等を表示すべき危険物及び有害物(令和8年4月施行予定) :名称等を通知すべき危険物及び有害物(令和8年4月施行予定)
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	非該当
廃掃法	産業廃棄物
麻薬及び向精神薬取締法	非該当
覚醒剤取締法	非該当
薬機法	非該当
カルタヘナ法	非該当
火薬類取締法	非該当
高圧ガス保安法	非該当
化学兵器禁止法	非該当
大気汚染防止法	非該当

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0014-3)
GeneAll Exgene™ Plant SV (植物 DNA):バッファーBD

オゾン層保護法	非該当
悪臭防止法	非該当
ダイオキシン類対策特別措置法	非該当
水質汚濁防止法	非該当
下水道法	非該当
水道法	グアニジン塩酸塩(塩化物イオン):水質基準
海洋汚染防止法	Triton X-100:海洋汚染物質(個品運送 P)
航空法	非該当
船舶安全法	非該当
港則法	非該当
道路法	非該当
労働基準法	非該当
農薬取締法	非該当
土壤汚染対策法	非該当
水銀汚染防止法	非該当
地球温暖化対策推進法	非該当
フロン排出抑制法	非該当

16. その他の情報

この安全データシート(SDS)は、作成時点において入手可能な製品情報および危険有害性情報に基づいて作成しておりますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありません。このため、新たな情報を入手した場合には、内容を追加または訂正することがあります。また、本 SDS に記載された情報は、製品の通常の取扱いを前提として提供するものであり、すべての使用条件下での安全性を保証するものではありません。ご使用に際しては、実際の作業条件に応じて十分な安全対策を講じてください。

引用文献及び参照ホームページ等

- ・サプライヤー提供の SDS
- ・JIS Z 7252: GHS に基づく化学品の分類方法
- ・JIS Z 7253: GHS に基づく化学品の危険有害性の情報伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
- ・化学物質規制・管理実務便覧(化学物質管理実務研究会編集、新日本法規出版株式会社出版)
- ・NITE 化学物質総合情報提供システム(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- ・ezCRIC+ (日本ケミカルデータベース株式会社)

以上